

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100681		
法人名	特定非営利活動法人 シルバーの森夕照苑		
事業所名	グループホーム シルバーの森夕照苑		
所在地	大津市富士見台44番14号		
自己評価作成日	令和1年12月8日	評価結果市町村受理日	令和2年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成31年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心から少し離れた山間に近い立地で四季の変化を感じられるしぜにゆたかな環境の中で「私らしく穏やかに暮らす」を理念として持つ施設で、利用者様おひとりおひとりのペースで生活をしていただけるような介護サービスの提供を心掛けている。朝・昼夕と3食手作りの家庭的な食事の提供をしている。安眠の為毎夕食後に足浴の提供を行っている。地域に密着した施設を目指して毎月地域の子供達へ夕食の提供を行い、利用者さんと子供達との触れ合いの時間も持っている。地域のボランティアさん・体操の先生・科移出レクで夕食の楽しみ田交流の機会も定期的に行われている。家事の中で洗濯たたみや干す前のお手伝いに参加していただいている事で、何か参加している、役割があるということで利用者さんの自身にもつながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大津市の琵琶湖を眼下に望める坂上にある事業所である。市の指導が入る等運営上課題を抱えた本年度であるが、介護経験26年の管理者と笑顔で支える職員が前向きに利用者と共に生活し頑張っている。職員は利用者により優しく視線を合わせて声かけし、人と人とのつながりを利用者と接して味わう時を喜びや励みとして介護に活かしている。事業所内に子ども食堂を開設し地域との交流の足がかりとしている。この子ども食堂は次年度からみんなの食堂と改称し近隣の老若男女を広く受入、地域との交流に活かそうとしている。難聴ながら筆談で笑顔で活発に交歓する利用者もおり、高齢化で元気な生活が困難になってきているが、洗濯物干しやかたづけなどできることをし、誕生日会や多くのボランティアの訪問を楽しみ暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人のプランで悩んだときは理念に戻り原点の理念に沿うようにしている。	「私らしく、穏やかに暮らす」を理念とし、「利用者が地域の一員として生活することを支援します」などを運営方針として掲げている。管理者は悩んだ時にはこれらに照らし合わせるように指導し、職員はそれを受けて介護に活かせるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関係はまだまだ時間がかかると思っている。	自治会に加入し、フラダンスやギター演奏などのボランティアを受け入れている。地域との関係をより良くするため、「子ども食堂」を開設し次年度から「みんなの食堂に」発展させようとしている。	「みんなの食堂」を契機に、地域に受け入れられ、入り込んでいくことで、訓練への参加など、地域の支援・協力が日常的なものになるよう努めて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験・地域の介護講座などに力を入れていきたい。今はまだできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回必ず行っている。困った時のアドバイスをもらうようにしている。	長寿相談所、自治会長、家族などの参加で隔月開催し、ヒヤリハット・事故や身体拘束、事業所の事業計画などの報告や相談をしている。議事録は、職員への回覧、家族への配布を行い周知に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括や介護保険課と相談したり指導を受けている。	身体拘束に関して市の指導が入り、事業所として運営に課題を抱える事態になっている。相談や指導をより多く実施しているが、協力関係が互いに意識し過ぎの感じになっている。	市の関係部署とは、今まで以上に積極的に相談し助言を受けるようにして、より良い関係の構築に努める工夫をして欲しい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けての取り組みが不十分であったが今年度は、研修を繰り返し行い身体拘束ゼロの意識が根付いている。	身体拘束をしない介護に向けて事業所一団になって取り組んでいる。スタッフ会議等機会を捉えて話し合い、研修受講時には各職員は個々に感想や思いを報告し、認識を一層深め介護に活かせるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者お一人おそれを一人の意向を尊重し、人生の先輩として学びながら援助していきけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回のスタッフ・カンファレンス会議の中で権利擁護が守られるように話し合った。毎年研修計画の中で研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の契約時説明は行って理解を得ているが、入居後ご理解が十分でないことを感じる場面が多くみられる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回の運営推進会議の中で吸い上げている。苦情受付担当者・ご意見箱を設置している。面会時に家族とコミュニケーションを図り意見や、要望を伺い会議やカンファレンス・受診時の際に代弁している。	家族の来訪時や介護計画作成時及び説明時に意見や要望を聴き取っている。職員に名札を付けて欲しいとの要望に、名札の接触による危険性も考慮して、とりあえず、先ず職員が名乗ってから対応するようにして応えている。	危険性の少ない布製の名札や事業所便りに職員紹介を継続して掲載するなど工夫して欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議・カンファレンス時で職員と施設内のことや運営状況についての交換を行っている。チェックアンケートを行って職員にフィードバックを行っている。個別サービスの質の向上を図っている。	管理者は月1回のスタッフ会議などで出る意見を尊重している。全員が入居者一人ひとりに、如何に寄り添うかを課題にし、その情報を積み重ねるように記録し、全員共有を目指している。利用者の状態を記録する方式の改善提案を実現しようとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も常に現場に入って職員の終了の状況が把握されている。勤務体制は、職員の希望をできる限りかなえる様にしている。講師を招き研修を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や社会福祉協議会主催の外部研修派遣し苑内では出前講座等を利用して研修を行い、就労・個人でも資格が取れるように勤務体制にも配慮・調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報の交換や来苑時の会話をこころがけ、情報提供やなじみの関係が作れるように機会を大切にしている。外部研修への参加の促しや情報交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	よく声をかけかい会話を心掛け関係づくりを大切にしている。声掛け傾聴を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談を大事にし家族との信頼関係を気づけるよう、面会時施設内での生活の様子等会話の中で詳しく伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からのご本人への生活の中での要望や意見などをアセスメント行い何がどのように必要なか支援の方向性を早めに対応ができる様に心掛けている。関係者で相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意向や能力・体調を配慮しながら、一緒に家事作業を行うようにしている。ソファで過ごして頂いたり、職員の輪の中で過ごされる時間も持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のご家族様の歴史を把握した上で、支援者としてのサポートができる様にコミュニケーションを取り把握している。必要時状況を家族に伝え面会に来て頂ける様にお伝えすることも有る。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の方が面会に来られた際には、ゆっくりご本人と会話をしていただけるような環境を提供している。(お茶・椅子の提供)	3週間毎に訪問される幼稚園時代からの友人や長男を亡くされた利用者を月命日には必ず次男が11時ごろ迎えに来て、法要を済ませて夕刻帰ってくる方もあり、馴染みの関係が継続するよう丁寧に応接している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志気が合う方と席が近くに設けて、レクや共同作業など一緒に参加していただき人間関係を無かめて頂ける様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も必要に応じて相談に努めているが契約終了後はあまりご家族や、ご本人が来られることは多くない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や思いに添える様に務めている。ご家族の協力を得ながら添える様に取り組んでいる。	管理者をはじめ職員が、一人ひとりの希望や願いを聞き取りメモに記入し、新入の職員が見てもすぐに役立つよう、情報の共有を行っている。管理者は、総ての利用者の意向を判断できるので、メモを残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様から家庭での生活のようすを聞き職員が情報を共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人に体調・病状・お気持ちにあった声掛け・誘導を行うことで能力維持を把握しながら日々支援行えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランはケアマネが作成し、モニタリングは月に1回の会議で確認する。ケアマネも現場で職員や直接ご本人に確認し現状を把握している。必要な事が出た際には会議を待たずにミニカンファレンスを開く。	介護記録、ケアチェック表などを基に、医師、看護師、家族を交えてサービス担当者会議で、変化が無くても3ヶ月毎、緊急時には都度見直して、家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中で振り返りを行うことで新しい気づきができ、職員同志情報の共有に活かしてそれを反映して援助プランにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化は、難しい課題です、外食楽しんで頂いている。時々の病状・ご様子で柔軟な対応を心掛けている。食欲のない時お好きな食べ物を提供。家族や友心と過ごせる時間や来苑の打診をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に自治会長さんの出席いただき、子供食堂開催・施設の情報を地域に伝えて頂けるところまでなっている。子供たち・ボランティアの来苑で笑顔が見られ豊かな暮らしが少しできてきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設協力医の受診希望の場合は月2回の往診で対応。希望かかりつけ医には家族様受診・定期往診で対応。必要に応じて中核病院と連携をしながら対応している。	10名中8名が、希望で協力医に切り替わり連携体制を採っている。2名は従来通りであるが、自前の看護師を中心に連携し健康管理に努めている。かかりつけ医の受診は家族が同行することになっているが、事業所も同行支援している。いずれも家族と情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が週2回勤務し、利用者との個別面談で体調等の確認を行い記録している。管理者・看護師・職員・ケアマネ・日々のかかりの中での情報と往診・受診時の医師の助言等を共有し利用者が適切に受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に必要な最低限は医療関係者に伝えられるように常に個人ファイルで準備している。入院中も隊員に向けての病状の把握豆に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で終末期の看取りも視野に入れて支援を行う方向で進めている。終末期の看取りについても、状態を見ながら少しずつ方向性の確認を行っている。今は、家族様の思い・意向等の確認の段階である。入居時家族と緊急時の対応について確認は行っている。	入居時に、重度化や看取りに関する指針を説明し家族の同意を得ている。今迄2名の看取りを経験しており、入居後の意向確認書、看取り時の関係者間の確認書を整備し、看取りケアについての職員の研修受講を計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年必ず、(定期的)に救急・救命、防火訓練を行い利用者さんの急変時の対応が適切に行えるように備えている。AEDの研修本日も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な訓練を行い地域の方(自治会長はじめ)にも協力をして頂ける様に働きかけしている。	自治会長の参加を得て、避難や消火、心肺蘇生などを含む年2回の訓練を実施している。水などの備蓄をしている。避難場所も確保しているが、より近くで行きやすい場所の選択に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんお一人お一人のことを理解し、できる限りその方に有った、言葉かけに努めている。	食事時の会話でも、丁寧な言葉使いで笑い声も混じる楽しい応答をしている。部内・部外研修を受講し、参加出来ていない職員にも伝達研修で必ず徹底するよう周知させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんお一人お一人があれがしたい、これがしたいと自己決定ができる様に心掛けている。お待ちすることも取り入れている。レクリエーション・ゲームの中でもお好きなことができる様に確認をしながら開催をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんそれぞれの生活リズムに合わせて穏やかに過ごして頂ける様に務めている。椅子、ソファを設置しゆったりと時間を過ごして頂ける環境づくりを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットの1回で笑顔が多く拝見できているため。定期的に理美容さんの手配、日々の中で衣類の希望・選択の機会を助言の中自己決定の時としその環境づくりに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ季節感を感じられる様なメニュー作り、に取り入れる様にしている。取り入れてきた利用者さんとの後片付けは少しずつ難しくなっている。	利用者の希望も採り入れ、かつ好みと健康維持との関係も考慮して、広くて清潔な台所で職員が全食を調理している。職員も介助しながら同じ食事を摂っている。利用者がトイレや移動に容易な所を厳選して外出に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	コップ・お茶は常に利用者さんに見えるところに置いている。季節や天候に応じ水分附則にならないように気を付けて提供している。また時間を決めシューズも提供している。摂取量の記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼夕と一日3回行いその都度スタッフがそばにいる状態で見守ったり、義歯を洗うなどの援助を行っている。丁寧に歯を磨いていただけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には声かけ・誘導・見守りを行っている。自立されている方は、様子確認等の注意を払い見守っている。	全員自立支援を行っている。内容はリハパン8名、1名は布パンツにパッドとなっている。1名はオムツからリハパンに改善し、支援によりトイレでの排泄が可能になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	時計回りに腹部マッサージ。適宜運動の機会の提供を行っている。食事面では食物繊維など摂取いただけるメニューを準備している。一定時間トイレに座っていただく事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態を確認し、声掛け・お誘いを行っている。週に2回は入浴していただく機会の提供をしている。健康状態は日々記録に残している。	入浴回数は週1~2回となっている。協力医の週2回程度で勧めれば良しとする状況判断がありそれに従って入浴支援している。9名は毎夕食後足浴を希望され実施後、靴下交換等で配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんのご希望と、浮腫改善の為お昼寝時間を設けている。浮腫の軽減・改善は図られている。毎夕食後の足浴の提供で安眠につながっていると感じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	決められた時間に職員がダブルチェックを行っている。見守り援助の中の見込みまで見守り確認を行っている。その記録も残している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、畳んだりして頂いている事で参加意欲も出して頂いている。お一人お一人のこだわりも拝見できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方々とお出かけ交流の機会は持っていないが、子供食堂開催での交流は持っている。年に数回の外出に出かけたり天気の良い日の苑内の駐車場や散歩をしたり、日光浴をしていただく機会を設けている。年間計画で外出の機会を設けている。	事業所の環境や重度化が進み外出が困難になってきているが、事業所前の駐車場での日光浴、近くの大規模ショッピングセンター等へ出かけるようにしている。家族との外出には、利用者の日頃の用品を家族に委託する等協力している。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は預かっていない」。必要なものがあれば家族さんに購入依頼を行っている。季節の衣類の確認等行き不足と思われるものがあれば連絡行っている。ご一緒に外出して購入されることも有る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で手紙を作成されることはほとんど難しいため、本人さんに代わってご希望がある時には連絡を行っている。施設としては、年賀状をご家族様にお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭が有椅子のみでなくソファを置いてそこに座って頂く事で季節感や日光浴等ゆったりとした時間を過ごして頂ける環境を作っている。	居間兼食堂は清潔でゆったりしており、喫食テーブルの周りにはソファを配して、ゆっくり寛げるようにしている。利用者の墨書や手芸品を飾っている。各ユニット3ヶ所のトイレや浴室は清潔に維持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置は皆さんと仲良く、気の合う方同志の会話を楽しんだりして頂ける様に配慮を行っている。窓際に椅子・ソファを設けてお一人での時間を過ごして頂ける空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っておられた家具を持ち込んでおられる方もおられる。写真やテレビお好きなものを置かれご本人のお部屋としてよい空間だできている。	テレビや筆筒など馴染みの品を持ち込んで、家族の写真や表彰状などを飾り、心地良い居室づくりをしている。手作りの刺繍の表札を各居室前に飾り、解りやすくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLの継続的な観察の中からトイレ・リビング・廊下・玄関など手すりの設置しており、お好きなように苑内を歩くことができるような環境を作っている。トイレには利用される方に張り紙をして動作の確認をうながす工夫もしている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	みんなの食堂をもっと地域の方々を知っていたく努力が不足している。	地域の方にもっと、みんなの食堂へ気軽に参加してもらおう。知っていただく。	・地道なかいさいと、運営推進会議出席者の助言を頂いているので、一人生活の高齢者の方へのお誘い、お子さんのおられるご家族の参加をお知り合いからのお誘い。 ・まずは、地域の方々へのチラシ戸別配布	6ヶ月
2	6	家族の方々が職員の名前がわからない。誰に伝えたか知っておきたいとの声があった。	職員と家族さん・入居者さんとの関係を今以上に親密・交流・会話・親しみを持っていただく。	・介護の中でけが等が起きない・事故にならないもので検討し、実施する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。